

明倫館だより

第55号
 平成23年6月1日発行
 発行人 井上晴雄
 公益財団法人 南豫奨学会
 南豫明倫館
 〒184-8586
 小金井市中町 4-18-26
 TEL 042-383-9835(代)

郷土の書生諸君！
 コエタゴ馬に
 なるなかれ。
 末広鉄腸

平成23年度主要行事予定

- 平成23年
- 4月 1日(木) 新入寮生15人が入寮
 - 10日(日) 花見・バーベキュー大会
 - 16日(土) 平成23年度第1回常務理事会
 - 17日(日) 寮則説明会・部屋回り
 - 5月13日(金) 第2回常務理事会
 - 6月 4日(土) 平成23年度定例理事会・評議員会
 - 8月 8日(月) 夏休み開始
 - 20日(土) 夏休み終了
 - 9月10日(土) 第3回常務理事会
 - 10月 7日(金) 入寮説明会(宇和島市)
 - ～8日(土) 父兄懇親会・奨学生面接選考
 高校長懇親会
 - 11月23日(祝) 第4回常務理事会・寮祭
 - 12月 3日(土) 第5回常務理事会(忘年会)
 - 4日～8日 南予4高校入寮説明会
 - 26日(月) 冬休み開始
- 平成24年
- 1月 7日(土) 冬休み終了
 - 21日(土) 第2回定例理事会
 (ホテルニューオータニ)
 - 2月19日(土) 第6回常務理事会・卒業生歓迎会
 - 3月10日(土) 第7回常務理事会・書類選考
 - 16日(金) 面接選考(宇和島市)
 - 27日(火) 平成24年度生入寮開始



混迷の時代に 大志と希望抱いて七人卒業

卒業生氏名(大学名出身地)進路
 一 将来の抱負 二 後輩への助言

泉 高士(専修大学・経営学部、八幡浜市) 専門学校

一 将来は税理士の資格を取得し、地元の経済の活性化に貢献したいと考えています。大学の四年間は長いようですごく短い時間です。一分一秒を大切に、常に向上心を持って過ごして下さい。

松本 慎吾(専修大学・商学部、西予市)

一 留年、会計士専門学校
 一 明倫館で学んだ事を早く活かせる様に勉学に励みたいと思います。また、明倫館の力になれるように、頑張ります。
 二 大学生活を楽しみながら、自分を磨いていって下さい。節電しましょう。

吉田 充慶(國学院大学・神道文化学部、西予市)

一 一日でも早く一人前の社会人となり、地元発展に貢献できる人間になりたいです。
 二 大学四年間は自分の幅を広げるチャンスだと思つので様々なことを経験し吸収してください。

織田 龍郎(明治大学・文学部、宇和島市)

愛媛新聞社
 一 一生懸命頑張ります。自分にできることは何なのか、日々考えながら生きていきたいと思つています。
 二 四年間、後悔のない楽しい学生生活を送つて下さい。

森 裕一(明治大学・理工学部、宇和島市)

愛媛銀行
 一 愛媛銀行の一員として目の前のことに一杯取り組んでいきたいです。そして、愛媛県の発展に貢献できればと思います。
 二 明倫館は色々なことを学ぶことの出来る場であると思つています。日々学ぶ姿勢を忘れず、立派な人物になつてほしいと思つています。

田中 吉典(中央大学・商学部、宇和島市)

伊予銀行
 一 四月から伊予銀行宇和島支店で勤務することになりました。広い視野から物事を見極めて行動できる人物になりたいと思つています。
 二 ここは東京です。自分の能力を最大限に発揮して、充実した毎日を送つて下さい。

鈴木 孝和(早稲田大学・社会科学部、松山市)

留年
 一 特にありません
 二 特にありません

「南豫明倫館のブログ」 を開設します！

このたび、南豫明倫館のブログを開設することとなりました。ブログとは、インターネット上に公開することのできる日記のようなものです。寮生が日々学校や寮内で体験したこと、感じたことなどを自由に投稿していきます。現状では保護者の皆様やOBの方々、入寮を希望している学生等が現在の明倫館や寮生を知る方法がありません。しかしブログをご覧になることで、寮生が何を考え、どのように生活しているのかということを知ることが出来ます。もちろん、インターネット上に情報を公開することは便利なことと引き換えに大きな責任が生じます。南豫明倫館の信用にも関わる重要な問題のため投稿内容については熟考する必要がありますが、こ

「自覚」と「責任」

自治委員長 宇都宮 裕大
 日本大学 経済学部 三年

今期、委員長をつとめさせてもらう宇都宮です。僕は委員長として「自覚」と「責任」の二つを持って行動していくことを頑張つていきたいと思つています。

まず「自覚」は、まだ委員長になつてから、委員長らしいことができなく、去年の二宮さんや、沖野さんのように委員長として自分から何かをしようとする行動できていないので、自覚をもって行動していかなければならないと思つきました。

「責任」では、寮生を統括するのが私の役目であり、寮生一人一人に目を向けて、注意すべきところは注意しなければなりません。そこがなかなかあなになつていては、駄目だと思つきました。私は、この二つを自分だけでなく、寮生みんなに意識してもらおうように努めます。

平成23年度 上期自治委員会

- ▷委員長 宇都宮 裕大
- ▷副委員長(東) 二宮 昇平
- ▷副委員長(西) 中川 翔太
- ▷整備(東) 清水 翔太
- ▷整備(西) 片山 陽平
- ▷風紀 松浦 孝治
- ▷広報 宇都宮 遼平
- ▷企画 織田 成郎
- ▷情報 濱田 勝太
- ▷サロン 富永 訓俊
- ▷会計 尾上 樹

のブログが皆様のお役にたてれば幸いです。予定では六月中旬より一年生から順に投稿していきたいと考えております。入寮したての希望に満ち溢れた気持ちを皆様と共有できればと思つています。

ご覧になりたい方は「南豫明倫館ブログ」または、左記URLで検索してください。また、ご返事や感想をお送りしたい方は記事の下にコメント欄がありますので、必ず実名でメールアドレスを入れてご返信ください。

●南豫明倫館ブログ、あるいは
<http://meirinkan.blog39.fc2.com/>

管理人・南豫明倫館自治委員会、情報委員
 濱田 勝太

「公益財団法人南豫奨学会」として認定されました。

平成二十三年四月二十六日付けで、長らく申請準備をして参りました公益財団法人への認可申請が認められ、平成二十三年五月二日付けで法人登記を完了し、同日付けで本奨学会は正式名称「公益財団法人南豫奨学会」となりました。認定までの長い作業・業務に関し、関係各位の方々に多大なご協力とご支援を頂戴した賜物と感謝申し上げます。今後とも公益の名に恥じない財団として従前に増しての努力をもって運営に当たりたく、これまで以上のご指導をお願いしたく、ご挨拶を申し上げます。

理事長 伊達 宗信



公益財団法人 南豫奨学会 「奨学金支援会」だより

(表1) 平成22年度支援会申込者数並びに募金結果 (平成23年3月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	17	690,000
評議員	24	480,000
OB	24	335,000
現父兄	9	100,000
一般	19	195,000
法人	2	70,000
市町村	1	50,000
合計	96	1,920,000

*一般には元父兄含まず。

(表2) 平成23年度支援会申込者数並びに入金状況 (平成23年4月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	12	340,000
評議員	20	430,000
OB	18	245,000
現父兄	4	50,000
一般	14	145,000
法人	2	70,000
市町村	0	0
合計	70	1,280,000

大学生活・寮生活について 宇都宮 遼平

大学進学のために上京し、この南豫明倫館に入寮してから二年が経過しました。光陰矢のごとしとはよくいいますが、正にその通りで、私も早くも三回生を迎えることとなりました。そこで、大学生活のいわば折り返し地点たる三回生を迎えた今、上京してからこれまでの生活を振り返ってみたいと思います。

私は現在、明治大学法学部法律学科に通っています。上京当時は弁護士になるという夢を抱いて、これから始まる大学生活に心を躍らせていたのを、今でも覚えています。そしてそれと同時に、南豫明倫館という、新たな生活の場へ移ることにも、期待を寄せていました。生まれて初めての一人暮らしで、一体どの様な生活をしていこうか、色々と思いを馳せていました。

その様な心境の中迎えた初めての行事は、部屋回りでした。これは新入寮生が先輩方の部屋へ挨拶回りに行くという行事です。そして、南豫明倫館の中庭にそびえる一本の桜の木の下で行われる、花見。そして一週間後には、新入寮生歓迎会。とても緊張してこれらの行事に参加していたのを思い出します。また、秋には寮祭、新年には餅つき大会、そして年度末には卒業生追出しコンパなど、南豫明倫館では様々な行事が行われます。これらの行事で私は、寮生活でのルールやマナーを学びとってまいりました。

勿論、全てが最初から上手く出来ていたわけではありません。ときには先輩からお叱りを受けたこともあります。ですがこの南豫明倫館で学んだルールやマナーというのは、これから私たちが社会に出て行く上で必要不可欠なものだと思っています。ですから、一つ一つ反省して身につけていける様努めてまいりました。

南豫明倫館の良さは、こうしたルールやマナーを学んでいけること、他、大学から帰寮すれば同郷の友人たちと楽しく過ごせるということです。帰寮すれば温かく迎えてくれる友人がいる。これは下宿生活やアパートでの一人暮らしでは味わうことの出来ないものだと思います。さて、焦点を大学生活に当ててみますと、昨

年の夏、私にとって大きな転機となるイベントがありました。それが、ケンブリッジ大学夏期法学研修です。この研修は、明治大学から約十五名の学生が夏季休業中の一ヶ月間イギリスのケンブリッジ大学へ行き、イギリス法を現地の生の英語で学ぶという内容のもので、昨年度に初めて実施されたものでした。現地には、語学研修のみの学生も含めて総勢五十余名が赴き、一ヶ月間生活を共にしました。ここではケンブリッジ大学の寮に寝泊まりしていましたが、共同生活の中で南豫明倫館での寮生活の経験が少しでも活かしていたのではないかと思います。



▲ケンブリッジ大学、フォーマルディナーにて。左から私、ジャクリン・トーマス先生、友人

この研修に参加するまでイギリス法の知識は皆無でしたし、講義は全て英語で行われ、講師の質問に対してはこちらも英語で答えなくてはなりません。最初はとても大変でした。然しその中で同時に、純粹に勉強が楽しいと思う感覚もありました。模擬裁判でどういう風に答弁したらこちら側に有利になるか、その様に解答するかを考えるのが、とても楽しかったのです。これまで日本での勉強では、忙しんという感覚が優先してしまい、大学進学前にあれ程待ちわびていた法律の勉強を楽しむという感覚が失われていた様に思います。然しこの研修を通して私は、学問は楽しいものだという感覚を取り戻した様に思います。この感覚を再び味わいたいと思います。私は現在興味のある分野である国際民事訴訟の大学教授を目指して勉強しています。

また、小学校三年生のときから始めた剣道は、大学のサークル、そして小金井市の校剣友会という剣道会で今も続けています。現在では主に剣道会の方で稽古をしており、また指導者として小・中学生の指導に力を入れています。昨年は小金井市選手権大会に出場させていただき、社会人男子三段以下の部で優勝させていただけました。今度はまだ先の話になってしまいますが、来年の秋に昇段審査がありますので、四段取得に向けてこれからも稽古を積み重ねていきたいと思っています。

ところで、この度未曾有の大災害が日本で発生してしまいました。三月十一日に太平洋三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震です。マグニチュード九・〇、東京からテレビを介して観た東北地方の映像は、正に地獄絵図そのものでした。

地震発生時、私は寮にいましたが、今まで経験したことのない大きな揺れに危機感を覚え、寮生一同で外に避難しました。揺れが収まってからテレビをつけると、東北地方太平洋沖地震の情報が流れていました。私の義兄の実家が仙台市だったのですから、私はテレビを観た瞬間凍りつきました。携帯電話がつかない中なんとかして急いで母に連絡し、仙台市の親族の方に連絡をとってもらいました。幸いなことに、親族は皆無事でした。

然し、この震災で非常に多くの犠牲者が出てしまいました。真に痛恨の限りです。この震災でこれまでの原子力発電所の安全神話は、完全に崩れてしまいました。然し今は、発生してしまつたことを悔やんだり責めたりするのではなく、これからどうすればいいかを考えなければならぬと思います。

故郷、愛媛県も、南海大地震が発生すれば伊方原子力発電所の崩壊が危ぶまれます。然し、原子力発電による電力の供給によるところは大きく、原子力発電の利用を完全にやめてしまつたらそれこそ電力不足などの問題が発生してしまつてしまいます。ですから、その様な方向で話を進めるのではなく、原子力発電所の施設の耐震検査、そして災害時の迅速な対応の為の処理のマニュアル化という方向で話を進めて行つてもいいと思います。

これから、私たちの寮生活、大学生活も、東北地方の復興も、明るい方向に進んでいってほしいと思います。

今号の言葉

「郷土の書生諸君！
コエタゴ馬になるなかれ。」

末広鉄腸

解説

明治二十年（一八八七）五月八日、宇和島に帰省した末広鉄腸が、青年諸子に『東京土産』と題して講演し、青年を激励した言葉です。

とかく南予人は、利口で、ものわかりよく、文章も巧いし、演説もできる、学芸の進歩もすばらしい。ただひとつ、大事なものが欠けている。自ら志を立てて、それを貫徹する気象に乏しすぎるはしないか。嘔むこともせず、蹴ることもせず、ひたすら柔和従順だけでは、主人のいうままにコエタゴを担いでいる馬みたいなものだ。駿馬ならんとすれば、千里の山坂も飛び越える気力をもたなければならぬ。

私は、東京神田南甲賀町の明倫館諸君の世話をしているが、同席の穂積陳重法学士と、「こんどきた男はコエタゴ馬か、それとも荒馬か」と噂することがある。

堂々と自己主張する自立心と進取の気象を持って、郷土の書生諸君！コエタゴ馬になるなかれ。（注、肥担桶とは糞尿を運ぶ桶）

末広鉄腸（一八四九〜一八九六）は、明治期、一世を風靡した郷土が誇る自由民権思想家、ジャーナリスト、「広辞苑」参照。
（南豫明倫館史 一五八〜一五九Pより）

南豫明倫館長 木下 博民

編集後記

▼平成二十三年五月二日付けで公益財団法人としてスタートしました。あわせホームページと南豫明倫館パンフレットを一新、いずれも学生諸君自らの力作です。

▼六月から新企画「南豫明倫館ブログ」を同じく自治委員会管理で開設します。詳しくは本紙表の解説をお読みください。

▼井上主事の後任に戸梶學新主事が明年四月より就任します。昭和四十七年明倫館卒業のOBで現役時代は愛媛新聞社で活躍された方です。